

授業展開例（国語）

1 校種・学年 小学校 第3学年

2 単元名 せつめいのしかたを考えて食べ物ひみつブックを作ろう
－「すがたをかえる大豆 食べ物のひみつを教えます」－

3 単元について

（1）単元観

本単元は、小学校学習指導要領国語の「C読むこと」「イ目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと」を受けて設定している。さらに「読むこと」で学習したことを「B書くこと」「ウ書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと」につなげ、ねらいに迫っていく。つまり、内容を分かりやすく伝えるための説明の工夫を学び、その学習を自分の文章に生かし、自分が筆者になって説明文を書くという「読むこと」と「書くこと」の複合単元である。

「すがたをかえる大豆」は、大豆を使った身の回りにある加工食品についての説明文であり、児童は関心を持って読むことができる。これまでに学習した説明文と同様、「はじめ・中・終わり」の三つに分かれた文章構成となっているが、これまでの仮説検証型（問い→答え）の説明文ではなく、解説型文章の典型的な構造で書かれた、問いのない説明文である。「はじめ」の部分で話題を提示し、「中」の部分では大豆をおいしく食べるための工夫を5つの例で示し、「終わり」の部分で全体をまとめている。「中」の段落は並列の関係にあり、各段落の最初の文が説明の中心になる文になっている。論の展開の仕方には大きな違いがあり、説明文としての新たな形式を学ぶことができる教材であるといえる。そして、学習した「分かりやすい説明の仕方」を生かして、「食べ物のひみつを教えます」の学習を進めていく。児童が「読むこと」で学習した筆者の段落構成の工夫を「書くこと」に生かしていくことができる教材であるといえる。

（2）児童観

本学級の児童は、学習への意欲が高く、発表も積極的である。これまでに「イルカのねむり方」や「ありの行列」の仮説検証型の説明文を学習した。その中で、段落に気をつけて読むことや、「はじめ（問い）－中－おわり（答え）」といった文章全体の構成についてはおおよそ理解できている。また、説明的文章を読む際に、接続語や時間の流れを表す言葉に着目するようになってきたが、段落の役割を理解している児童は少なく、叙述に即した読みの課題は大きい。

自分の伝えたいことを調べて書くことについては、必要な情報を選択したり、情報を関連付けてとらえたりする力は個人差が大きい。また、「相手に分かりやすく書く」という相手意識が薄いため、書き終えた時点で満足してしまい、自分で推敲するまでには至っていない。

また、総合的な学習の時間には、「高宮の有名なもの大調査」で、地域の豆腐屋さんの見学を行っている。また、この豆腐屋さんの協力により、PTC活動で豆腐づくりも計画しており、しかもその豆腐作りに必要な大豆は、学級の畑で育てている最中である。こうした一連の活動により、大豆という素材そのものや加工品への興味関心は非常に高くなっている。

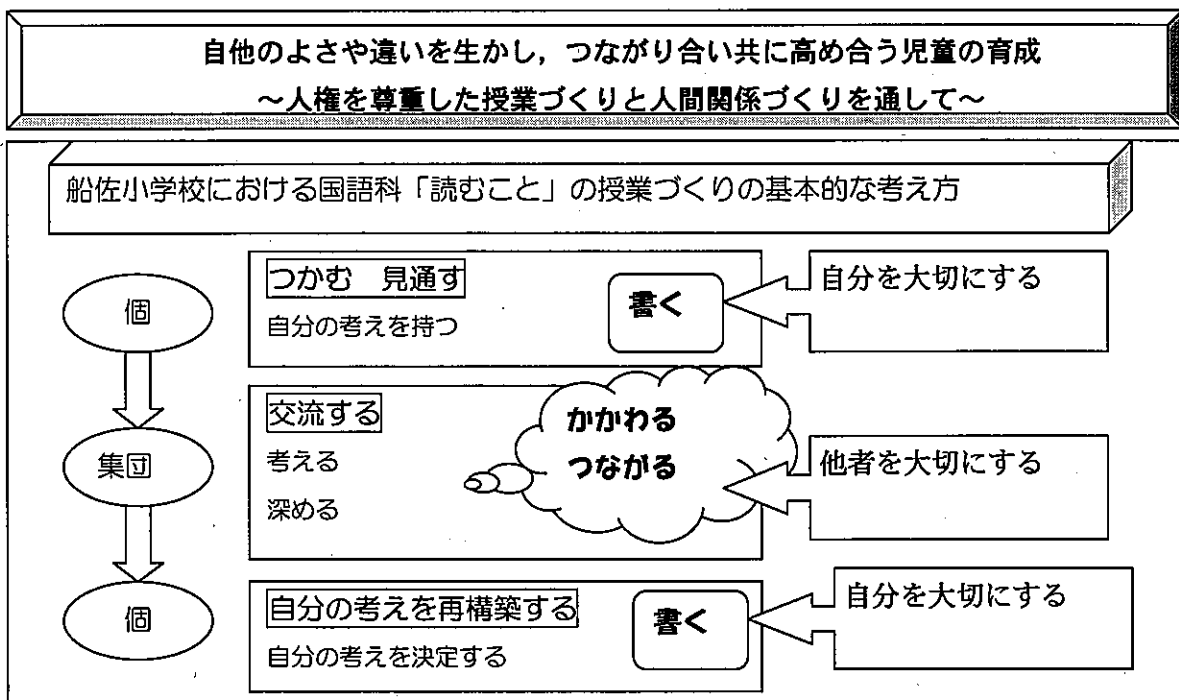
(3) 指導観

指導にあたっては、まず、形式段落を確認した後、「くふう」「すがた（食品名）」「へんしんの仕方（加工の仕方）」を手がかりに中心文を見つけ、段落ごとの要点をまとめていく。そして、まとめた要点を使って、文章全体を「はじめ・中・おわり」という三つの部分に分ける。「はじめ」から順に読み進めるのではなく、「分かりやすい説明の工夫」についての中心になる「中」③～⑦段落から読み、意味のまとまりを考えることで段落とは何かをとらえさせる。そして「中」の文を並べ替えたり、文中の表現と写真とを関連付けたり、書き出しに着目して段落相互の関係を読み取ったりする活動を通して、分かりやすく説明するための筆者の意図に迫っていく。段落のつながりを意識した論理的文章構成をとらえられるようにしていくと共に、次に、「はじめ」と「おわり」の役割について考えさせ、筆者の考えである「昔の人々の知恵」に共感させたい。そして単元を通して行う並行読書により、自分の調べたい食べ物を決定し、必要な事柄をひみつメモに整理した上で、「書こうとする中心」を明確にする。理由や事例を挙げながら、読み手に伝わる説明文を書かせ、完成した作品を読み合うことで、友達の書き方の良さに気付かせていきたい。

(4) 単元を貫く言語活動とその特徴

単元を貫く言語活動として「食べものひみつブックを作る言語活動」を設定した。子どもたちは「すがたをかえる大豆」に興味を持って学習することにより、「自分もすがたを変える〇〇について書いてみたい！」という関心・意欲が高まり、教材文から学んだ分かりやすい説明の仕方を、自分が調べたことにつなげて具体的に考えようとするであろう。つまり「食べ物ひみつブックを作る」というゴールに向けて、単元を貫く言語活動を常に意識しながら学習に取り組むことで、児童自身が学習を見通したり、振り返ったりすることができると思う。そして、完成した説明文を互いに読み合い、食べ物が変身する様々なひみつに出合える面白さを感じたり、他学年に紹介して感想をもらったりすることで児童の満足感や達成感も高まるであろう。

4 研究主題とのかかわり



本学級の児童は、友達の発表から学ぼうとするよさはあるが、ペアやグループで交流する姿を見ると、それぞれが自分の考えを話しているだけで、「話し手」として相手に分かってもらうように根拠を基にして話すことや、「聞き手」として自分の考えと比べながら聞き、よく分からなかったところを質問したり、相手の発表に対して考えを述べたりするまでには至っていない。1分間スピーチの中で、話し手の内容に対して自分と比べて思ったことを感想で述べる活動を1学期から続けている。この取組を継続しながら、グループでの話し合いを意図的に仕組み、自分の考えを整理したり見つめ直したりした上で、学級全体での話し合いの場で自分の考えをしっかりと持って臨めるようにしていきたい。このことが他者を大切に、共に高め合う児童の姿となるであろう。

5 単元の目標

- 文章の内容に関心を持ち、文章構成を理解しながら読もうとする。 (関心・意欲・態度)
- 自分が説明したい事柄について取材する活動を通して、「はじめ・中・おわり」の構成を意識し、例を挙げながら段落に分けて書くことができる。 (書くこと ウ)
- 自分の書き方と友達の書き方を比べ、上手に説明しているところに気付くことができる。 (書くこと カ)
- ◎大豆が姿を変えることについて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を読むことができる。 (読むこと イ)
- 文章中の言葉の意味や指示語・接続語のはたらきを理解し、使うことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(ク))

6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
「食べ物ひみつブックを作る言語活動」を通じた指導			
①文章の内容に関心を持ち、文章構成を理解しながら進んで読もうとしている。 ②食べ物について関心を持ち、課題に合わせて調べたり書いたりしようとしている。	①書く目的によって必要となる事項と観点を理解し、取材している。 ②書こうとすることの中心を明確にし、目的に応じて、事例を挙げながら書いている。 ③自分の書き方と友達の書き方を比べ、上手に説明しているところに気付いている。	①「はじめ・中・おわり」の文章構成をとらえたり、中心となる語や文に着目して、段落の要点や意味段落をまとめたりすることができている。 ②事例の順序に気をつけ、筆者の説明の仕方を読み取っている。	①指示語・接続語の意味と、その使い方を理解し、自分の説明文の中で活用している。

7 単元の指導と評価の計画 (全 13 時間)

次	時	学習活動	評 価				評価規準	評価方法
			関意態	書	読	言		
I	1	・題名読みや、読んだ感想の交流から、学習計画を立てる。 (1)	◎				・「食べ物ひみつブック」を作ることに関心を持ち、文章構成を理解しながら読もうとしている。 関①	ノート 行動観察
II	2	・中心となる文について考え、要			◎		・結論が述べられている文を見つけ、抜き	ノート

	<p>点をまとめ、文章構成をつかむ。</p> <p>(1)</p>			<p>出した一文を体言止めにして短くまとめ「はじめ・中・おわり」に分けている。</p> <p>読①</p>	<p>ワークシート</p> <p>行動観察</p>
3	<p>・食べ物ひみつブックを書くために9つの食品を仲間分けし、段落について理解する。(1)</p>		◎	<p>・9つの食品が5つに分けられる理由を説明し、段落について理解している。</p> <p>読①</p>	<p>ノート</p> <p>ワークシート</p> <p>行動観察</p>
4	<p>・食べ物ひみつブックを書くために自分が選んだ材料の変身の過程をひみつメモにまとめる。(1)</p>		◎	<p>・本から調べたことの中から、必要なことを選択してメモをしている。</p> <p>書①</p>	<p>ノート</p> <p>ワークシート</p> <p>行動観察</p>
5	<p>・食べ物ひみつブックを書くために「中」の段落の工夫をとらえ、ひみつメモを分類する。(1)</p>		◎	<p>・一つの段落に一つの工夫が紹介されていることを読み取り、手順に着目して、ひみつメモを分類している。</p> <p>読②</p>	<p>ノート</p> <p>ワークシート</p> <p>行動観察</p>
6	<p>・食べ物ひみつブックを書くために「中」の段落の並べ方の工夫をとらえ、食べ物変身カードを並び替える。</p> <p>(1) 本時</p>		◎	<p>・すがたをかえた食品をどのような順序で提示したらよいかを読み取り、理由を書いている。</p> <p>読②</p>	<p>ノート</p> <p>ワークシート</p> <p>行動観察</p>
7	<p>・「はじめ」の役割を考え、食べ物ひみつブックの「はじめ」の部分を書く。(1)</p>		◎	<p>・「すがたをかえる大豆」の「はじめ」の書き方が分かり、それを生かして自分の説明文の話題提示部分を書いている。読②</p>	<p>ノート</p> <p>ワークシート</p> <p>行動観察</p>
8	<p>・「おわり」を読んで筆者の考えを読み取り、「すがたをかえる大豆」の感想を書く。(1)</p>		◎	<p>・大豆の有用性とそれを考え出した人々の知恵を読み取り、文型に沿って自分が一番驚いた工夫について書いている。読②</p>	<p>ノート</p> <p>ワークシート</p> <p>行動観察</p>
9	<p>・食べ物ひみつブックに書きたい食べ物について調べ、ひみつメモに整理する。(1)</p>		◎	<p>・調べたい食べ物について本などで調べ、ひみつメモに必要な事柄を、教材文の記述に沿った書き方で書いている。書①</p>	<p>ノート</p> <p>ワークシート</p> <p>行動観察</p>
10	<p>・「はじめ・中・おわり」の全体構成を考えて、「はじめ」「おわり」の文章を書く。(1)</p>		◎	<p>・指示語・接続語を適切に使って、「はじめ」「おわり」を書いている。</p> <p>言①</p>	<p>ノート</p> <p>ワークシート</p> <p>行動観察</p>
11	<p>・調べた食べ物について学習した書き方を生かして「中」の文章を書き、ペアで読み直す。(1)</p>		◎	<p>・伝えたいことが分かるように「中」の部分で内容のまとめりごとに段落を分けて文章を構成している。</p> <p>書②</p>	<p>ノート</p> <p>ワークシート</p> <p>行動観察</p>
12	<p>・分かりにくい表現、誤字、脱字、改行に注意して推敲し、消書する。(1)</p>		◎	<p>・文章の間違いを正し、よりよい表現に書き直している。</p> <p>書②</p>	<p>原稿用紙</p> <p>チェックシート</p>

13	・書いた文章を読み合い，説明の仕方の良いところを，発表し合う。(1)	◎	・友達の書き方のよいところや工夫しているところに気付いている。書③	原稿用紙 ノート
----	------------------------------------	---	-----------------------------------	-------------

8 本時の学習

(1) 本時の目標

「中」の段落を読み，説明する順序に気をつけて分かりやすく伝えるための文章の書き方の工夫に気付くことができる。

(2) 本時の評価規準

○すがたを変えた食品をどのような順序で提示しているのかを読み取り，理由を書いている。

(3) 人権教育の視点



人権尊重の理念 自分を大切にし他者を大切にしてい共に生きていく

めざす授業像	筆者の工夫について読み取ったことを出し合い，考えを深めて高まり合う授業
--------	-------------------------------------

人権教育の視点	めざす姿	工夫・手立て
自分を大切にする	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者がどうしてこの順番に事例を挙げているのかを考え，その理由を書いている。 ・友達の発表から自分の考えを再構築し，なるほど 	<ul style="list-style-type: none"> ・「すがたをかえる大豆」の学習（筆者の書き方の工夫を知ること）が，食べ物ひみつブックを書くときのポイントになることを押さえ，「分かりやすい説明の仕方」を意識させる。また，題名に使われている「すがたをかえる」という言葉に再度注目させることで，順番を考える際の視点とさせる。 ・教科書で使われている写真や，「粉にひく」「水につけておいた大豆をすりつぶす」「にがりを入れる」など，工程が分かる掲示をすることにより，簡単なものから難しいものという順番に書かれていることに気付かせる。 ・「中」の部分を見通せるよう，③～⑦段落を1枚にまとめた教材文を準備する。 ・接続語を手がかりに考えている児童と，記述内容を基に考えている児童を見取り，意図的に指名することで児童に異なる考えの視点を持たせる。 ・自分の書いた考えを消して書き直すのではなく友達の発表を聞いて思ったことも「自分の考え」

	<p>と思ったことや気付いたことを「国分さんのこだわりポイント」として書いている。</p>	<p>（国分さんのこだわりポイント）として改めて文章で書き表せるようにする。そのことで自分の考えが持てたことに自信を持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板書が、児童の考えを整理できるものになるように工夫をする。 ・話し合いの後、自分のカードの順番を考えさせることで、再構築した自分の考えに自信を持たせ、書くことへの意欲につなげる。
<p>他者を大切にする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ交流では、「話し手」として相手に分かってもらうように根拠を基にして話している。また、「聞き手」として自分の考えと比べながら聞き、分からなかったことを質問したり、発表を聞いて思ったことを話したりしている。 ・グループ交流で自分の考えをまとめ、全体での練り合いの場で自信を持って発表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すときに気をつける事」「聞くときに気をつける事」など、授業の中で確認したことが振り返ることができる掲示や、1分間スピーチの中で、友達の発表に対し、自分と比べた感想を発表する取組を振り返ることで、目指す交流の姿をイメージさせる。 ・「どうしてそう思ったの？」と切り返すことにより、本文の中の根拠を明らかにした説明をさせる。 ・グループ交流の時間を確保し、話し合いによって多様な意見が出るようにする。 ・枝豆やもやしの順番など、疑問に思っていることもグループ交流の中で出させ、しっかり話し合わせる。

(4) 本時の展開

活動内容	指導上の留意点	評価規準	評価方法
<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <p>2 指導者の提示した文章の並べ方の意図を知る。</p> <p>3 本時のめあてを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物ひみつブックを作るために、「すがたをかえる大豆」の説明文を使って「分かりやすい説明の仕方」の学習をしていることを押さえる。 ・よく食べる順（納豆、みそ・醤油ー豆腐ーもやし・枝豆ーいり豆・煮豆ーきな粉）に並べた事例を提示する。 		
<p>食べ物ひみつブックを書くために、筆者のだん落のならべ方のひみつを見つけよう。</p>			
<p>4 「中」(③～⑦段落)の音読をし、文章の並べ方の違いを比べる。</p> <p>5 筆者が並べた意図を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・提示した文章が、筆者の考えと同じかどうか比べながら読み、文章の並べ方を確認することにより、筆者が順番にこだわっていることを意識させる。 ・ワークシートに、「どのような順番で並べているのか（筆者がこだわっている分かりやすさ）」や「この並べ方のよいところ」について書かせる。 		
	<p>交流前の児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「作り方の簡単なものから、作り方の難しいもので並べている。だから分かりやすくていい。」 ・「大豆の形が変化している順になっているけど、納豆や枝豆は後から出てくるのでよく分からない。」 ・「枝豆やもやしは、簡単に食べられるのに後ろの方に書いてあるのはどうしてかな。」 	<p>自分を大切にする</p>	
<p>6 考えを交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、3人グループで話し合う。互いの考えをしっかりと聞き、よく分からなくて困っていることも出し合う。自分の考えを持って、全体の話し合いをする。 ・意図的指名や板書により、考えを整理しやすくし、食べ物のひみつブックを書くためのポイントに気付かせる。 	<p>ワークシート 行動観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すがたを変えた食品をどのような順序で提示しているのかを読み取り、理由を書いている。 	
<p>7 自分の考えを再考する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の考えを聞いて考えたことや分かったことを「国分さんのこだわりポイント」として書かせる。 		
	<p>期待する児童の言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「筆者は作り方がだんだん難しくなっていて、大豆の姿も変わっている順に並べている。枝豆やもやしは、大豆になる前の食べ物で、読む人をびっくりさせるから最後にしている。」 ・「作る時間がかからないものから、時間がかかる順にならんでいる。」 ・「いちばん分かりやすいのは「次に」「また」「さらに」「これらのほかに」という書き出しが、並べ方を分かりやすくしているからいい。」 	<p>自分を大切にする</p>	
<p>8 今日の学習をもとに自分のカードの順番を考え、その理由をこだわりポイントから選択する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「この並び方にした理由」はこだわりポイントから選択し、「今日の学習から学んだこと」を書かせることで、今日のふり返りとする。 		
<p>9 次時の課題を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物ひみつブックを書くために、「はじめ」の部分を読み取ることを伝える。 		

9 板書計画

十月八日

せつめいのしかたを考えて、食べ物ひみつブックを作ろう

「すがたをかえる大豆」 国分まきえ

⑤ 自分が使った「だわりポイント」 (番です。今日の学習から) (というひみつが分かりました。)

⑥ 国分さんの「だわりポイント」

①大豆のすがたがわかっていくじゅんばんにする。

②ひみ手をおどろかせるものは最後にする。

③書きはじめの言葉をくふうする。

食品の写真

やいばんのほかり

いり豆・に豆

次に、

また、

さらし、

なつとう・みそ

とうふ

きなこと

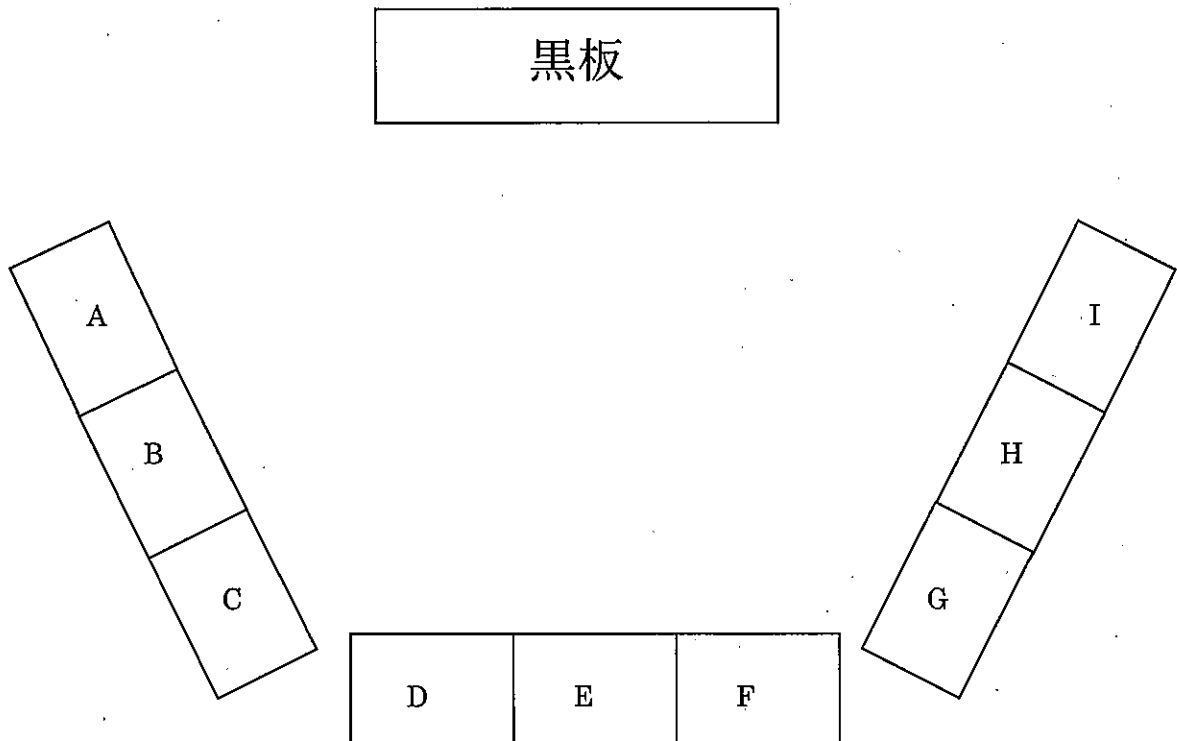
これらのほかに、

えだ豆、もやし

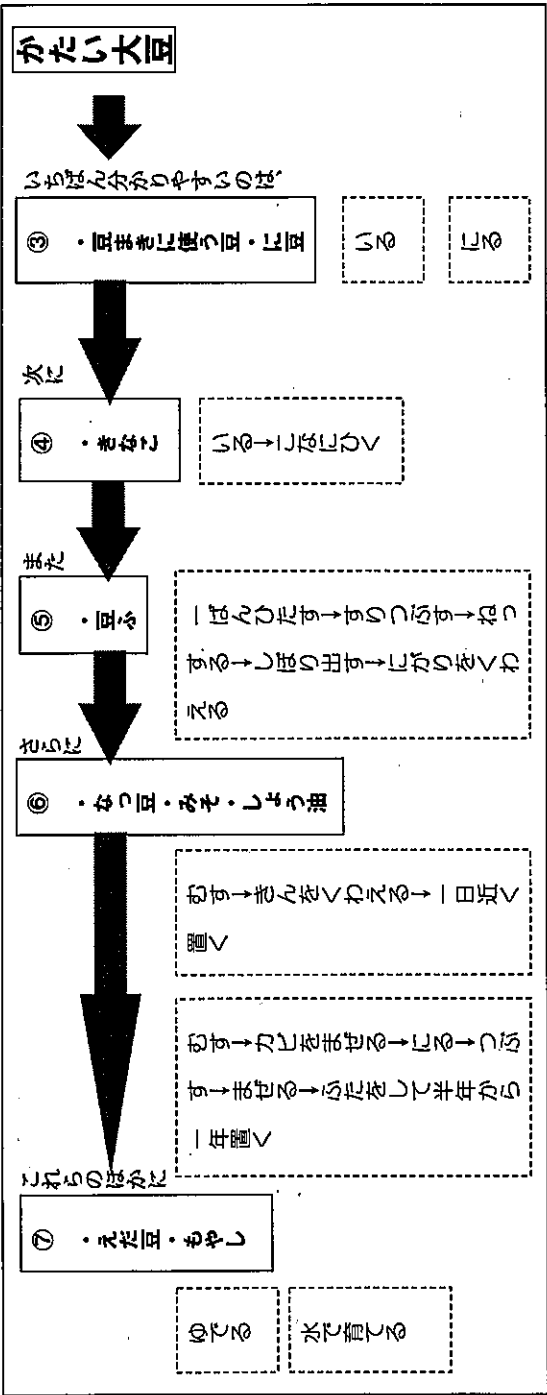
水にひたす→すりつぶす→ねっする→しぼる→にがり
 むす→コウジカビ→しお→にる→まっ大豆を加える→まつ
 作り方がかたかたの形がかわる
 時間がかかるとかわる
 そのほかのくふう

⑦ 食べ物ひみつブックを書くために、筆者の「だん落」のならばのひみつを見つけよう。

● 座席表



④ 食べ物ひみつブックを書くために、筆者のたん落のならべ方のひみつを見つけよう。



国分さんのならべ方 (自分の考え)

国分さんのこだわり (分かりやすくせつ明する) ポイント ～ならべ方～